

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2570100863
法人名	医療法人社団 洛和会
事業所名	洛和グループホーム坂本
所在地	滋賀県大津市下阪本6丁目19-1 (電話)077-578-6411

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価確定日	平成20年12月26日

## 【情報提供票より】(平成 20年 8月 18日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 21日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 7.5 人	

## (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2階建ての	2階 ~	2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,700円	

## (4)利用者の概要( 8月 18日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	1 名	要介護2		2 名		
要介護3	1 名	要介護4		3 名		
要介護5	2 名	要支援2		0 名		
年齢	平均	86 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 洛和会音羽病院 坂本医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

歴史あふれる比叡山坂本の地に建つ当該ホームは、医療、介護、健康保育、教育研究の総合ネットワークを持つ洛和会のグループホームの一つです。比叡山の麓、琵琶湖からも程近く長年地域医療を支えたクリニックの2階部分を改装して開設されたホームです。法人による研修や医療の連携等、バックアップ体制が整備されており、職員は利用者、一人ひとりの生活のペースに合わせてながら、自由に過ごす事で、その人らしい生活ができる支援と笑顔を大切にされています。又、その様子を家族に報告して、希望や意向を聞く機会を持って利用者、家族との馴染みの中で信頼関係を構築されています。全職員が協力し、意見を出し合いながら、より良いケアになるよう力を入れて取り組まれているホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を活かし、ホーム独自の理念を玄関に掲示されたことで、管理者と職員は理念を共有し、理念である地域で暮らすことや笑顔を大切にケアすることを意識し、日々、実践されています。また、課題となった項目を具体的な解決の方向に検討されています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については職員と担当を決めて項目ごとに分担し記入したものを管理者がまとめられて作られています。自ら改善点を把握する機会となり、改善計画を立てられて実行に移されています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者、家族、自治会連合会長、社会福祉協議会長、自治会長、民生児童委員会、地域包括支援センター、管理者をメンバーとし、2ヶ月に1回開催しています。利用状況やホームの様子など報告がなされ、助言、質問、情報交換を行っています。話し合った内容をサービスの向上に取り組んでいます。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの玄関に意見箱を設置しています。重要事項説明書にも苦情窓口を明確にし説明されています。毎月のホームでの利用者の様子や変化等を手紙にして、きめ細かい対応で家族との信頼関係ができており、要望や意見を直接聞くことができている。電話や来訪時にも意見、不満、苦情を随時受け入れられ、迅速に改善に向けて職員間で申し送り等、共有して検討し必要に応じてケアプランに反映させています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、敬老会、地域行事の夏祭り等、積極的に地域活動に参加しています。ホームの中の多目的ホールで10月末に秋祭りが予定され利用者と地域住人の交流の場となります。その案内を運営推進会から自治会連合会長、自治会長、民生児童委員会長の協力を得て回覧板で地域に回すなどし、チラシも配布しています。前回の夏祭りでは、地域の住人の多数の参加もあり、交流することができています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を基にホームでは「地域の中で笑顔を持って暮らしていきたい」という理念を掲げ支援を行っている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念が利用者の手で書かれ玄関に掲示され、誰もが理念を共有することができるようにしている。理念である地域で暮らすことや、笑顔を大切にケアすることを意識し、日々実践されている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、敬老会、地域行事の夏祭り等、積極的に地域活動に参加している。ホームの多目的ホールで秋祭りが予定され、利用者と地域住人の交流の場となるよう企画されている。運営推進会から提案や協力を得て回覧やチラシを地域に配布するなどしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員間で項目ごとに分担したものを管理者がまとめて作られている。自ら改善点を把握する機会となり、改善計画を立て実行に移されている。前回の評価を活かし、ホーム独自の理念を玄関に掲示し、管理者と職員は理念をもとにケアすることを意識し、日々、実践されている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者、家族、自治会連合会長、社会福祉協議会長、自治会長、民生児童委員会、地域包括支援センター、管理者をメンバーとし、2ヶ月に1回開催している。利用状況やホームの様子など報告がなされ、助言、質問、情報交換を行っている。話し合った内容をサービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	下坂本における福祉介護関連者間の地域ケア会議に出席し、ボランティアや行事など情報交換をしており、市の担当者も参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に3回「坂本だより」が発行され、季節の行事やホームの様子、職員の異動等の報告をし、家族からの原稿も記載されている。家族の来訪時や電話の際に利用者の暮らしぶり等日々の様子を報告し、状況変化のある時にも臨機応変の対応を図っている。毎月、出納帳の写しと領収書を添付し、手紙も送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書にも苦情窓口を明確にしている。電話や来訪時に意見、不満、苦情、を直接聞くことができている。受けた意見などに対しては、迅速に共有、検討し必要に応じてケアプランに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、職員同士の関係も良好で離職者もなく、異動についても良く話し合い最小限となるよう配慮している。利用者には混乱しないよう、配慮しながら事前に知らせている。家族には毎月の手紙や季節ごとの便り等で報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修が計画的に行われており、評価システムの体制が整えられている。研修の資料は全職員に回覧や伝達研修などで共有を図っている。ホーム独自でもカンファレンスの際やミーティングを兼ねて自己学習をし、非常勤の個別指導を行いステップアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や認知症実践者研修の交流の場で情報交換したり、法人内のグループホームの会議などに出席し、情報交換や相談をすることで、ホームのサービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ほとんどの利用者、家族は事前にホームの見学に訪れ、聞き取った要望を基にケア計画に繋げている。利用にあたって、管理者、職員は利用者の居宅を訪問をし、利用者、家族と馴染みの関係を作りながらアセスメントを行い、入居後も利用者の馴染んでいる様子を確認しながらケアを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの生活歴や経験を大切に、ある時には教えられ、支えられることもありながら共に暮らしている。日々の暮らしの中でも食事作りや草花の世話、季節の行事などの習慣を教えていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、さらにホーム独自でも全職員がいつでも利用者一人ひとりが把握できるようなシートを作成され、希望や意向等、日常生活の情報を得て、把握に努めている。意思の表現の困難な方には、家族からの情報や表情、仕草から本人の思いをくみ取り把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式とホーム独自の用紙を用いて把握した思いや意向を職員間で共有し、カンファレンスに反映させ、介護計画を作成している。また、介護計画の作成にあたっては、利用者、家族の要望や担当職員の情報などを総合的にまとめわかりやすく記録している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに定期的な見直しを行っている。介護保険の区分変更時や状況に変化のある時には随時、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常生活の中から買い物、外出、行きつけの美容院、墓参り等、利用者個々の生活、希望にできる限りの支援をされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者、家族と相談し、契約時に確認をしてかかりつけ医を決めている。提携病院は一階に併設されており、相談しやすく適切な医療への安心感に繋がっている。訪問歯科及び訪問看護は週に1回の往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としての「看取り指針」を契約時に説明し同意を得ている。終末期の段階をホームで迎えた利用者はいないが、家族、医療チーム、職員と連携をとり支援する体制は整えられている。今後備えて、勉強会等を検討している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については、ホームとして徹底して実践している。時に不適切な発言がある場合には個人的な指導を行うこともある。個人情報のファイル等は、鍵のかかるロッカーなどに適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日のペースに合わせて、起床時から就寝時までの日常生活が自由に過ごせるように支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	事前にメニューを作るのではなく、冷蔵庫にある食材で利用者と共にその日の献立を相談しバランスも考えながら献立を作っている。時々、買い物にも外出している。気分、体調に合わせて準備、盛り付け、食事作り、片付けを職員と一緒に楽しく行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯を決めずに、希望に応じた対応を心がけている。個人チェック表を見ながら入浴のタイミングに合わせて楽しめるよう支援をしている。拒否のある方には声かけの方法を工夫し入浴に繋げている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域のフェスティバルへ出展される手芸や洋裁などの作品作りへの支援、食事作り、園芸、カラオケ、外出等、利用者の趣味や楽しみ、気晴らしなど張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	琵琶湖に近く、畑があり、少し足をのばせば神社があり、散歩、ドライブには恵まれた立地の恵みを楽しんでいる。地域行事、理美容、馴染みの場所など希望にそった外出の支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階部分がクリニックで、2階にホームがあり、扉代わりにパーテーションが置かれ、人の出入りがわかるように動かすと鈴が鳴るようにして、見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1度消防署との協力で防災訓練を実施している。ホーム独自でも2ヶ月に1度、昼夜想定で避難訓練を行っている。運営推進会議でも訓練の報告がなされ、緊急時の対応の方法や職員の緊急時連絡など工夫が重ねられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人による検査表の作成や栄養バランスへのアドバイスをもらうシステムがあり、チェックを受けている。食事は個人チェック表にて管理し、必要な方の水分量は記録している。水分は意識して提供し、十分に摂って頂くようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や共用空間に様々な絵画が飾られ、既存の建物に因るハード面の冷たさをカバーし、観葉植物などを置いて豊かな空間を感じさせる場所となっている。多目的ホールは周辺の景色を見たり、開放感につながり、リビングも広く、季節の花が生けてあり、穏やかに過ごせる場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者と家族に相談し、使い慣れた家具や写真、趣味の品なども活かして居心地良く過ごしていただく支援をしている。利用者の生活に合わせ、和室やベットを置いたりフロアカーペットを敷くなど考慮している。		